

第3期中期計画 平成30年度年度計画・実績報告

		福井高専 平成30年度 年度計画	福井高専 平成30年度 年度計画実績報告	
I	1	国民に対して提供するサービスの質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置	<p>(1)入学者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県下全中学校及び滋賀県・石川県の入学実績のある中学校を訪問し現状を説明することによって、中学校教員の高専に対する理解度とプレゼンスの向上に努める。</li> <li>県内各中学校が実施する高校説明会に積極的に教員を派遣する。</li> <li>本校Webページやカレッジガイドなどの広報を通じて本校の各種イベントを紹介し、社会に向けての広報活動に努めるとともに、福井県内月刊広報誌や新聞等を通じての広報活動を行う。</li> <li>本校の特徴的な実験設備を用いた公開講座や出前授業の実施を通して、科学教育の啓発と高専のブランド力向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県下全中学校及び滋賀県・石川県の入学実績のある中学校合計157校を訪問し、現状を説明することによって、中学校教員の高専に対する理解度とプレゼンスの向上に努めた。</li> <li>県内各中学校が実施する高校説明会13校に教員を派遣した。</li> <li>本校Webページやカレッジガイドなどの広報を通じて本校の各種イベントを紹介し、社会に向けての広報活動に努めた。福井県内月刊広報誌や新聞等を通じての広報活動を行った。</li> <li>本校の特徴的な実験設備を用いた公開講座や出前授業の実施を通して、科学教育の啓発と高専のブランド力向上に努めた。</li> <li>公開講座として予定していた21件のうち19講座を実施し、好評のうちに終了した。全受講者にアンケートをとった結果、総合的な満足度は97%を超える数値となった。また地域からの要望に呼応して16件の出前授業を実施した。</li> <li>これまでの5年間、毎年約20件の公開講座および約15件の出前授業を実施してきたが、ほとんどの講座について受講者は「満足」と回答しており、機構本部から求められている目標値を上回る結果を得ている。次期中期計画においても地元からの要望を的確に把握して本件を進めていきたい。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>例年通り、5月、8月及び10月と年3回のオープンキャンパスを開催し、本校学生のプレゼンテーションを通じて、中学生やその保護者に高専教育の特長と良さを知ってもらう。</li> <li>5月に行っているキャンパスウォークでは、15歳人口が減少傾向にある中、幅広い層への理解を得るために、中学生だけでなく一般の参加を促すべく公民館等への掲示等を行い、地域住民の本校に対する理解が深まるような取り組みを昨年度に引き続き行う。本校女子学生との懇談の場を設ける。</li> <li>10月下旬から11月にかけて福井県内各地で入試説明会を開催する。昨年度に引き続き休日にも開催し、保護者が来易い環境を作る。</li> <li>オープンキャンパス以外でも、本校受験希望者に対する学校見学を積極的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>例年通り、5月、8月及び10月と年3回のオープンキャンパスを開催し、本校学生のプレゼンテーションを通じて、中学生やその保護者に高専教育の特長と良さを知ってもらった。</li> <li>5月に行っているキャンパスウォークでは、中学生317名、保護者247名、中学校教諭7名および一般参加者22名が参加した。また、本校女子学生との懇談会には58名の中学生が参加した。</li> <li>8月のキャンパスツアーでは中学生417名、保護者291名、中学校教諭13名が、10月のキャンパスリサーチでは中学生244名が参加した。これらの数値は昨年度とほぼ同数である。</li> <li>10月下旬から11月にかけて福井県内各地で入試説明会を開催した。昨年度に引き続き休日にも開催し、これまでに中学生248名、保護者310名、教員54名が参加した。</li> <li>本校受験希望者に対する学校見学者数は、年間で延べ1597名であった。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>本校Webページにおける情報発信力を強化し、中学生及びその保護者、中学校教員に対して本校のプレゼンスを浸透させる。</li> <li>入試広報誌としてのカレッジガイドや各学科のパンフレットの内容を精査して作り直し、オープンキャンパスや入試説明会等で配布し、広報に努める。</li> <li>地域広報誌を使い、幅広い層への本校のプレゼンスの浸透を図る。</li> <li>専攻科案内パンフレットを修正し、専攻科入学試験の受験生を増やすために広報に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校Webページにオープンキャンパスへの申し込み欄を設け県外中学生からの応募を行いやすくした。</li> <li>入試広報誌としてのカレッジガイドや各学科のパンフレットの内容を精査して作り直し、オープンキャンパスや入試説明会等で配布し、広報に努めた。</li> <li>地域広報誌を使い、幅広い層への本校のプレゼンスを高めるための記事を掲載した。</li> <li>パンフレットを修正した。推薦選抜と学力選抜合わせて57名の志願者があった。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>正確で公平・公正な入試を実施する。</li> <li>本校のアドミッションポリシーにかなう学生が選抜できるように推薦選抜における面接内容及び作文課題を吟味する。</li> <li>入試説明会で3つのポリシーの周知に努め、高等教育機関における自学自習の重要性を浸透させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正確で公平・公正な入試を実施した。</li> <li>本校のアドミッションポリシーにかなう学生が選抜できるように推薦選抜における面接内容及び作文課題を検討した。</li> <li>入試説明会では、3つのポリシーのうち特にアドミッションポリシーについての周知に努め、高等教育機関における自学自習の重要性を浸透させ、学科選択のミスマッチが生じないように配慮した。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度入学生から実施している2年進級時における学科再選択制度に関する説明を入試説明会等で十分に行い、進学時の学科選択の不安解消に努めるとともに、学際領域カリキュラムにより幅広い応用力が身に付けられることを周知する。</li> <li>新入生アンケートを実施し、入試広報委員会及び入学試験委員会で解析し、次年度の広報活動に活かす資料とする。</li> <li>効果的な広報活動を継続的に行い、中学校と連携を取りながら、高い志と資質を持った入学志願者の確保に努める。中学校訪問に併せ、女性のキャリアパスを積極的にアピールし、女子志願者増を図る。</li> <li>女子学生等からの要望に基づき、計画的に和式トイレを洋式に改修し、女子学生の修学環境改善に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度入学生から実施している2年進級時における学科再選択制度に関する説明を入試説明会等で十分に行い、進学時の学科選択の不安解消に努めるとともに、学際領域カリキュラムにより幅広い応用力が身に付けられることを周知した。</li> <li>新入生アンケートを実施し、入試広報委員会及び入学試験委員会で解析した。入学意思決定時期についての調査から、次年度のオープンキャンパスの在り方を検討した。</li> <li>効果的な広報活動を継続的に行い、中学校と連携を取りながら、高い志と資質を持った入学志願者の確保に努めた。中学校訪問に併せ、女性のキャリアパスを積極的にアピールし、女子志願者増を図っている。</li> <li>女子学生等からの要望に基づき、平成30年度は電子情報工学科3階と4階の女子トイレにおいて、1箇所づつ計2箇所を和式から洋式へ改修した。</li> </ul>	
		<p>(2)教育課程の編成等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度入学生から実施している学際領域カリキュラムの学年進行に伴う実施内容を精査し、産業構造の多様化や技術の高度化に対応する。</li> <li>グローバルエンジニアとなるべき人材のさらなる育成をめざし、英語科はもとより、本科、専攻科、国際交流室、キャリア支援室等と連携した小委員会を立ち上げ、海外インターンシップや海外研修への派遣学生の増加に努める。</li> <li>平成31年度入学生より適用する新教育課程表の改善の検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度入学生から実施している学際領域カリキュラムに関して、科目担当者及び創造教育開発センターにてカリキュラム内容等の吟味を行い、プロジェクト演習の実施方法を決定した。</li> <li>グローバルエンジニアとなるべき人材のさらなる育成をめざし、国際交流室、専攻科、留学生委員会、キャリア支援室が連携しながら、海外インターンシップや海外研修への派遣学生の増加に努めた。</li> <li>教育課程の検討を行い、「人間と社会」「海外インターンシップ」「量子エネルギー工学」「環境分析化学」など新しい科目の導入を図った。新しい教育課程は平成31年度入学生より実施予定である。</li> </ul>	

第3期中期計画 平成30年度年度計画・実績報告

	福井高専 平成30年度 年度計画	福井高専 平成30年度 年度計画実績報告
編成等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・”KOSEN(高専)4.0”イニシアティブの活動を通して、農工連携、放射線教育、防災・減災に関する教育の充実に努める。</li> <li>・社会のニーズの動向を把握することを目的に、修了生を対象としてホームカミングデーを開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の4学年から開講するプロジェクト演習の課題の中に、農工連携、放射線教育、防災・減災に関する教育の内容を落とし込むように実施方法を決定した。</li> <li>・10月20日(土)に専攻科ホームカミングデーを開催した。修了生が19名参加し、参加者に社会ニーズに関するアンケートをとり、地元企業で活躍している修了生の講演を行った。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CBT型で行われる学習到達度試験が学生の学習意欲の向上につながるような施策を検討する。</li> <li>・4年生に対して本校で開催するTOEIC IP試験を全員に受験させ、使える英語能力の涵養に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高専機構からのCBTによる学習到達度試験を11月中旬から1月末にかけて実施した。</li> <li>・5月に4年生に対して本校で開催するTOEIC IP試験を全員に受験させた。</li> <li>・工業英検を本科の全1年生に受験させた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートを各学期終了時にWEB入力によって実施する。また、前年度の授業アンケートに対する教員側のコメントを収集し、9月に、学生へは紙媒体で、教職員へは学内グループウェアで公開する。</li> <li>・授業アンケート結果を、教員のFDにつなげていく方策について検討する。</li> <li>・授業形態が多様化している状況を踏まえ、授業アンケートの項目の検討を行う。</li> <li>・教員間ネットワーク会議などを通して、教員間の情報共有を図り、授業内容及び授業方法の改善につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度の授業アンケートを実施した。</li> <li>・平成29年度の授業アンケート結果については、創造教育開発センターの会議で報告済。また、各クラスには紙媒体で、教員にはグループウェアで公開した。</li> <li>・平成28年度の授業アンケートで学生の評価が高かった教員3名が、6月27日の平成30年度第1回FD講演会において、授業での工夫点などを講演した。</li> <li>・今年度も、8つの分野項目に関する教員間ネットワーク会議を行った。また、平成31年度の4年生から実施する、「プロジェクト演習」の担当者間の打ち合わせを、教員間ネットワーク会議として、2月7日、3月25日に行った。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種コンテスト及び高専体育大会への積極的な参加を奨励する。既存のコンテストに限らず、学生の活動の幅を確保するため、新規コンテストや地域と連携したプロジェクトにも積極的に参加を促す。</li> <li>・学生のものでづくり志向を涵養するため「福井高専キャンパスプロジェクト」を拡充して実施し、表彰を含めた報告会の展開を図り、学生の企画立案・実施の能力の更なる涵養に努める。</li> <li>・学生の活動の場所に余裕を持たせるため、校内の環境整備を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度福井県高等学校春季少林寺拳法大会兼全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技(5月)に、本校少林寺部が出場し、内1組(2名)が優秀賞を受賞し、全国大会(インターハイ)(8月)出場を果たした。</li> <li>・平成30年度福井県高等学校春季総合体育大会テニス競技大会北信越高校兼全国高校総体予選会兼国体選考会(6月)に、本校テニス部が出場し、3位入賞を果たした。</li> <li>・第100回全国高校野球選手権福井大会(7月)において、本校野球部が2年連続で8強入りを果たした。</li> <li>・第29回全国高等学校アマチュア無線コンテスト(7月)に、本校アマチュア無線研究会が出場し、優勝を果たした。</li> <li>・第42回全国高等学校総合文化祭(吟詠剣詩舞部門)(8月)に、本校学生が福井県選抜チームとして出場した。</li> <li>・全国高等専門学校体育大会(8月)に、地区大会を制したテニス(個人及び団体)、水泳、柔道(個人)の3競技で出場を果たした。テニス競技では、男子団体が3位入賞を果たした。水泳競技では、2種目で優勝、1種目で3位入賞を果たした。</li> <li>・第19回IARU ARDF世界選手権大会(9月、韓国で開催)に本校アマチュア無線同好会所属学生が日本代表選手として参加した。</li> <li>・ロボットコンテスト2018東海北陸地区大会(10月)に2チームが出場し、内1チームが技術賞と特別賞を、もう1チームがデザイン賞を受賞した。</li> <li>・第29回全国高等専門学校プログラミングコンテスト(10月)に出場し、競技部門で3位、課題部門で特別賞、自由部門で敢闘賞を受賞した。</li> <li>・今後、第15回全国高等専門学校デザインコンペティション(11月)、第12回東海北陸地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(11月)に出場した。</li> <li>・福井高専キャンパスプロジェクトを予算規模を拡大して募集し、9件についてプロジェクトを認めた。これらのプロジェクトに参画した学生は、活動成果をもとに12月に報告会を行った。</li> <li>・学生会活動の拠点である学生会室を利便性の高い福利厚生施設1階に移設した。これまで利用してきた学生会室は改修後に課外活動での利用を想定した場所として開放予定である。</li> <li>・課外活動関連施設の見直しを行った。現有倉庫を改修し、次年度の利用開始を目指して課外活動拠点「フリースタジオ(仮称)」の整備を進めている。</li> <li>・学生によるプロジェクト遂行の場として「匠らぼ」を整備した。匠らぼを利用した校内環境整備の第一弾として、学生有志による学生ラウンジ壁面のデコレーションが完了した。</li> </ul>

第3期中期計画 平成30年度年度計画・実績報告

福井高専 平成30年度 年度計画	福井高専 平成30年度 年度計画実績報告
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のボランティア活動などの社会奉仕体験活動への周知・支援を行う。特に、美化については様々な場面で周知を図り、各種イベントにおける清掃ボランティア等を通じて校内外の美化に関する意識を啓発・涵養する。</li> <li>・国体への支援や地域公共交通への協力等を通じて、学校と地域との関係をより密接なものとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生オリエンテーション(4月)では、会場への移動の過程に地場産業を見学できる施設に立ち寄り、食事をしながら地元に触れる機会を設けた。</li> <li>・7年間継続して実施している鯖江市立神明保育所の保育ボランティア(9月)に、今年度は6名の学生が参加した。</li> <li>・学生会主催でクリーン大作戦(10月)を実施し、32名の学生と7名の教員が参加した。本校を起点に鯖江市内・越前市内の通学路を中心に商店街や住宅地、河川敷、公園などを通る4コースに分かれてゴミ拾いを行った。</li> <li>・校内にて学生が行うキャンパスプロジェクトにおいて、校内清掃ボランティアを行う活動や校内の環境整備(駐輪場整備)を行うプロジェクトを採択した。</li> <li>・福井で開催された国体の支援に、教員13名及び学生22名を派遣した。学生は公欠とした。</li> <li>・福井新聞社 ゆめつくるふくいプロジェクト主催のふくい宇宙アイデアソンに応募し、本校のチームが選出された。同チームは、2019年のISTS福井大会開催にあわせ、発表準備中である。なお、ISTS福井大会では、別途学生発表も予定されている。</li> </ul>
<p>(3)優れた教員の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業などでの豊富な実務経験者、技術士等の国家資格を有する者、及び他の教育機関での経験を有する者の採用に向けて努力する。</li> <li>・教員選考時には面接に加えて模擬授業等も課し、高専教員としての適格性を見極め、多様な価値観を吸収・活用できる組織となるよう努力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員公募に際して、優れた教育力を有する者を2名(内女性1名)採用した。引き続き、豊富な実務経験に加えて技術士などの国家資格を有する教員の採用に努めた。</li> <li>・教員選考時には面接に加えて模擬授業等も課し、高専教員としての適格性を見極めた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高専・技科大間の教員交流や三機関連携事業の経験者による報告会等を通して周知するとともに積極参加を促し、幅広い知見の習得とキャリアアップの機会を提供していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度の現時点においては、当該制度に基づく教員の受入れ実績はない。</li> <li>・6月、3機関連携事業グローバル人材育成力強化プログラムに参加(平成28年度)した教員1名の報告会を実施した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊富な経験や高度な力量を持ち、かつ、多様な人材を確保できるように採用人事に工夫を凝らす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員公募に際して、優れた教育力を有する者を2名(内女性1名)採用した。引き続き、豊富な実務経験に加えて技術士などの国家資格を有する教員の採用に努めた。</li> <li>・教員選考時には面接に加えて模擬授業等も課し、高専教員としての適格性を見極めた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画の趣旨を踏まえ、女性教員の積極的な採用に向けて努力するとともに、女性教員に支援制度を周知し活用を促す。</li> <li>・女性教職員からの要望に基づき、計画的に和式トイレを洋式に改修し、女性教職員の就業環境改善に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公募においては女性優先を明記しており、本年当初に女性教員1名を採用したが、これに加え、機械工学科、電子情報工学科、環境都市工学科及び一般科目(国語)の計4名の公募内容にも「女性優先」と明記している。</li> <li>・子育て世代の女性教員に対する時間割等、公務面での配慮を引き続き行った。</li> <li>・女性教職員からの要望に基づき、平成30年度は電子情報工学科3階と4階の女子トイレにおいて、1箇所ずつ計2箇所を和式から洋式へ改修した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに開催している、他の教職員の模範となるような成果等をあげた教職員による講演会を継続的に開催し、教員の資質・能力向上に対するモチベーションの涵養を図る。</li> <li>・授業アンケートの結果を活用した校内FD研修会の実施を検討する。</li> <li>・全国高専フォーラムへの積極的な参加を促す。</li> <li>・福井県大学間連携事業(フレックス)主催のFD研修会やワークショップへ参加する。また、今年度の本校が担当である、ティーチング・ポートフォリオ作成WSを開催する。</li> <li>・Webシラバスやアクティブラーニングに関する講習会へ積極的に参加するとともに、学内に周知し情報共有を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度の授業アンケートで学生の評価が高かった教員3名が、6月27日の平成30年度第1回FD講演会において、授業での工夫点などを講演した。</li> <li>・8月の全国高専フォーラムには、7名のポスター発表があった。またOS、WSにもセンター員、教務主事団を中心に参加した。</li> <li>・9月12日、13日に仁愛大学で行われた、フレックスFD合宿研修会に参加した。</li> <li>・12月3日にFD研修会として、本校及び福井県内の高等教育機関の教職員を対象とした「TPチャート研修会」を行った。講演会には25名、ワークショップには10名の教職員が参加した。</li> <li>・年4回開催されている第3ブロックAL推進研究会に、平成30年度は3回(第13回、第15回、第16回)参加することができた。</li> <li>・3月15日、16日に「発想法の指導に関するFD研修会」を行い、14名の教員が参加した。</li> <li>・福井県大学間連携事業(フレックス)主催のティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップを、平成31年3月22日～24日の日程で本校が主管となって開催した。本校からは、メンティー1名、メンター2名、コーディネーター1名が参加した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の勤務意欲の高揚及び本校の活性化を図ることを目的に、職務に精励し、その功績が顕著な者を教員顕彰対象者として推薦する。また、非常勤を含めた全教職員を対象とした校長表彰を継続して実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の勤務意欲の高揚及び本校の活性化を図ることを目的に、職務に精励し、その功績が顕著な教員2名を理事長表彰対象者として推薦した。また、年度末には他の教員の模範となる業績を上げた教員に対して校長表彰を実施した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育研究の発展と活性化のために、在外と内地の研究員制度の利用を奨励する。</li> <li>・「高専・技科大間教員交流制度」を利用しての教員交流を勧める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育研究の発展と活性化のために、教員に対して在外と内地の研究員制度の利用を奨励している。</li> <li>・今年度については、「高専・技科大間教員交流制度」による教員交流の実績はない。</li> </ul>

第3期中期計画 平成30年度年度計画・実績報告

	福井高専 平成30年度 年度計画	福井高専 平成30年度 年度計画実績報告
<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>4 教育の質の向上及び改善のためのシステム</p>	<p>・モデルコアカリキュラムの実施により、本校学生のレベルアップがなされるように教育内容を充実させる検討を行う。</p> <p>・高専Webシラバスの記載方法を全教員に周知するとともに、ルーブリックの有効活用について検討する。</p> <p>・平成28年度入学生から実施している学際領域カリキュラムの充実を図る。</p> <p>各学科等においては、以下の取組を行う。</p> <p><b>【機械工学科】</b></p> <p>・モデルコアカリキュラムへの対応とものづくり系科目の充実を目的として平成26年度に開始した教育課程により、創造性を高め、高度な技術を活用した体験型教育の実践を継続する。</p> <p>・今年度開講する3学年の学際科目の実施状況を検証し、次年度以降に開始する学際科目の課題を調査し、学際カリキュラムの充実についての検討を行う。</p> <p>・モデルコアカリキュラムおよびWebシラバスへの対応について検証する。また、モデルコアカリキュラムにおける機械系分野の実験・実習能力の実質化についての検討を行う。</p> <p><b>【電気電子工学科】</b></p> <p>・モデルコアカリキュラムへの対応を継続的に検討し、昨年度末までにルーブリック等による到達度評価方法を含めてWebシラバスに教育内容を明記したので、これに沿って教育実践を行う。モデルコア・カリキュラムを反映させた教育プログラムを実践した科目の評価を行い、必要に応じ内容を再検討し、更なる教育の質の向上を図る。従来より取り組んできた学年毎にレベルアップするコンテスト形式のものづくりと、アクティブラーニングとの整合性について議論し、学生の主体的な学びによる問題解決能力育成環境の構築を目指す。従来から取り組んできた放射線・原子力に関する学生教育を、外部資金を獲得し、継続的に実施する。</p> <p><b>【電子情報工学科】</b></p> <p>・専門科目の基礎及び応用的な知識の定着に資する資格試験の積極的参加を進めるため、具体的な方策を講じる。</p> <p>・現在実施している専門科目の内容と、モデルコアカリキュラムの各分野の科目に求めているレベルの達成を評価できるルーブリックの利用法を検討し、さらなる充実を図る。</p> <p>・学外のICT関連企業の技術者と協力し、アクティブラーニングを意識した実践的かつ創造性を育むカリキュラムの取組を目指す。このために様々なコンテストへの応募を継続して行う。</p> <p>・教室や自宅においても、演習室に近いPCの利用環境を実現し、座学と実験実習の連携、自主的な学習及びアクティブラーニングを推進することを目的に、29年度から3年生に導入したBYOD(Bring Your Own Device)を用いた各授業の充実を図る。また、来年度以降の3年生についてもBYODを導入する。さらに、教室におけるPC利用環境の整備を行っていく。</p>	<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>・モデルコアカリキュラムの実施により、本校学生のレベルアップがなされるように教育内容を充実させる検討を行った。</p> <p>・高専Webシラバスの記載方法を全教員に周知するとともに、ルーブリックの有効活用について検討した。</p> <p>・平成28年度入学生から実施している学際領域カリキュラムの充実を図った。</p> <p>各学科等においては、以下の取組を行った。</p> <p><b>【機械工学科】</b></p> <p>・モデルコアカリキュラムへの対応とものづくり系科目の充実を目的として平成26年度に開始した教育課程により、創造性を高め、高度な技術を活用した体験型教育の実践を、3年生以上の設計製図や実験・実習等の科目で継続しており、状況に応じて内容を改善した。実習を担当できる技術職員が減少しているが、実習のレベルを維持するため、1～3年の実習内容を見直して効率化を図るとともに実習担当教員を増員し、安全面の確保を行った。今後さらに、実験実習系科目のテーマを精査し、安全面を確保しながら学習効果の効率化を高めていくことが課題である。</p> <p>・今年度前期に開講した3年の学際科目「熱流体エネルギー概論」の実施状況を機械工学科の全教員で検証した。今年度明らかになった問題点を踏まえて、次年度以降に機械工学科が担当する学際科目の内容を検討した。</p> <p>・モデルコアカリキュラムおよびWebシラバスへの対応について検証した。また、モデルコアカリキュラムにおける機械系分野の実験・実習能力の実質化に対応するため、1年の専門基礎IIの後期で実施している機械実習で学生による達成度の自己点検を実施した。さらに、来年度以降に2年生以上の実験実習系科目で実施するための検討を行った。</p> <p><b>【電気電子工学科】</b></p> <p>・モデルコアカリキュラムへの対応を継続的に検討した。一昨年度末までにルーブリック等による到達度評価方法を含めてWebシラバスに明記した。教育内容に沿って教育実践を行った。</p> <p>・モデルコア・カリキュラムを反映させた教育プログラムを実践した科目の評価を行い、各教員が更なる教育の質の向上を図るべく必要に応じ内容を再検討した。</p> <p>・従来より取り組んできた学年毎にレベルアップするコンテスト形式のものづくりと、アクティブラーニングとの整合性について議論した。今後は学生の主体的な学びによる問題解決能力育成環境の構築を目指すこととした。</p> <p>・以前から取り組んできた放射線・原子力に関する学生教育を継続的に実施し、福井大学と連携した取り組みも行っている(国際原子人材育成カインシアチブ事業)。</p> <p><b>【電子情報工学科】</b></p> <p>・資格試験への参加については、基本情報技術者試験の合格が3名である。今後も資格試験への挑戦を推奨していく。</p> <p>・現在、1年生の専門基礎3内の実験に関し、学生が自分で到達度の自己判定の可能な「実験スキル評価シート」を作成し用いた。</p> <p>・学外のICT関連企業技術者との協力については、4年生前期のPBL科目の一つで、その成果をもとに、各種コンテストへ参加することを目指す「創理工学演習」において、昨年に引き続き、地元IT企業(株)ignote代表の中西孝之氏を非常勤講師に迎えて、講義および各グループの課題克服へのアドバイスを受けた。コンテストへの参加では、中西氏の指導を受けた学生が全国高専プロコン競技部門へ出場3位という好成績を収めた。課題部門ではの書類審査を通過し、大会において特別賞を受賞した。自由部門でも書類審査を通過し、大会において学生総合評価賞を受賞した。また、課題部門、自由部門のテーマをビジネスモデルとしてHIT2018に参加し、キャンパス部門優秀賞とNICT賞(起業家甲子園挑戦権)を受賞した。そして、起業家甲子園において企業賞(アイ・オー・データ賞)を受賞した。その他、ETソフトウェアデザインロボットコンテスト北陸地区大会へ参加、「ふくいソフトウェアコンペティション」において大賞受賞、「ふくいビジネスプランコンテスト」においてふくい信用金庫賞を受賞などの活動があった。</p> <p>・昨年度から始まったBYODの導入については、本年度も3年生が各自購入したノートパソコンを利用して、通年科目の数値計算、オペレーティングシステム、計算機構成論Ⅰ、実験Ⅱ及び後期科目の情報ネットワーク基礎において、端末演習室と並行して、教室でも授業を行っている。また、学生は、それらの授業におけるプレゼンやレポート作成にも活用している。来年度以降も3年生に継続して導入するために、2年生に対する説明会を実施し、保護者向けの案内を配布した。また、今年度も校長裁量経費を得て、5年生教室に、有線LANポート6力所の設置とノートパソコン充電用の電源コンセントの増設工事を行った。</p>

第3期中期計画 平成30年度年度計画・実績報告

福井高専 平成30年度 年度計画	福井高専 平成30年度 年度計画実績報告
<p><b>【物質工学科】</b>                      ・平成28年度新入生に対して、モデルコアカリキュラム(MCC)及び専攻科の授業科目の充実に対応した教育課程を作成している。本学科は4年次より全員が共通科目を修得しながら、「生物工学コース」と「材料工学コース」に分かれて専門性の高い教育を行っているが、MCCと専攻科の科目の充実の為に、共通科目とコース科目の入れ替えや、90分×15回で2単位といった学修単位化などを予定していることから、今年度は、実施に係る具体的な授業内容と方法を詳細に検討する。また、ここ2年の入試倍率が5学科中最低であったことから、オープンキャンパスの内容や学科のHPの充実はもとより、「物質工学科」といった学科名称が中学生に対して分かりにくいといった点も指摘されていることから、学科名称の改称についても検討を行う。</p> <p><b>【環境都市工学科】</b>                      ・モデルコアカリキュラム(MCC)に則り、かつ、学習意欲を一層高揚する実験実習の在り方(内容や運用方法)について再吟味する。                      ・2020年9月の「建築士試験指定科目の確認申請(更新)」を控えて、建築系科目のみならず土木系科目をも含めた教育課程編成の精査に着手する。                      ・滞在期間1ヶ月程度の短期留学生を積極的に受け入れて、学生相互の異文化交流やグローバル人材の育成に取り組む。</p> <p><b>【創造教育開発センター】</b>                      ・平成28年度から実施している「学際カリキュラム」の段階的实施と充実を図る。                      ・Web シラバス(MCC の実施確認やルーブリックの有効活用などを含む)を活用した、教育の質保証に対する教員の意識向上を促進する。                      ・学校全体としての、学習支援の在り方を検討する。                      ・学習教育環境の変化や授業形態の多様化に伴い、本校に適したICT 環境の構築を図る。</p> <p><b>【数学】</b>                      ・学生の基礎学力の涵養と定着および、主体的な学びを促すため、これまでに取り入れてきた様々な授業形態(ICT活用、グループ学習など)を、継続的に行う。                      ・予習および課題による復習を含めた、自学自習による授業外の学習習慣を身に付けさせるよう努める。</p> <p><b>【物理・地学関係】</b>                      ・4年生の実験について、レポートの添削・返却プロセスの改善による学習効果向上取り組み。                      ・2年生のシラバス見直しによる、スムーズな1年生からの学習内容の移行。                      ・アースサイエンス(地理Ⅱ)の実施2年目に向けて、授業内容の検討。</p>	<p><b>【物質工学科】</b>                      ・平成28年度新入生に対して、モデルコアカリキュラム(MCC)及び専攻科の授業科目の充実に対応した教育課程を作成している。本学科は4年次より全員が共通科目を修得しながら、「生物工学コース」と「材料工学コース」に分かれて専門性の高い教育を行っているが、MCCと専攻科の科目の充実の為に、共通科目とコース科目の入れ替えや、90分×15回で2単位といった学修単位化などを決定し、実施に係る具体的な授業内容と方法を詳細に検討し、平成31年度より実施する。また、ここ2年の入試倍率が5学科中最低であったことから、オープンキャンパスの内容や学科のHPのリニューアルを行った。「物質工学科」といった学科名称が中学生に対して分かりにくいといった点に関して、学科名称の改称について検討したが、「生物応用化学科」や「化学・バイオ工学科」といった他高専の学科名称改称の例は進路先の確保が困難であり見送り、アドミッションポリシーの具体化で対応することとした。</p> <p><b>【環境都市工学科】</b>                      ・平成28年度、29年度、30年度の3ヶ年を費やして、モデルコアカリキュラム(MCC)における建設系分野科目の学習内容と到達目標に適った講義及び実験・実習に改めた。平成30年度には従前のデジエシラバスからWebシラバスへの移行を完了し、さらに、平成31年度の本学4学年、5学年用Webシラバスには実務経験者の担当科目(8単位)を明示して、「高等教育の負担軽減方策」の施行に備えている。                      ・一級建築士の受験資格を継続するための措置として、平成29年度には建築系2科目を増設した。引き続き、柔軟な教育課程編成の実現を目指して、平成30年度には土木系、建築系を合わせて11科目(講義9科目、実験・実習2科目)を学修単位とする学則改正を行った。                      ・平成29年6月及び平成30年6月には、タイ王国のキングモンクット工科大学に在籍する男子学生を2名ずつ短期留学生として受け入れ、国際交流・グローバル化の実績を重ねた。平成31年度も、2名程度の受け入れ体制を整えている。</p> <p><b>【創造教育開発センター】</b>                      ・平成31年度から4年生で実施する「プロジェクト演習」の実施方法について検討を行い、「学際カリキュラム」の担当教員向けの資料(案)を作成した。                      ・平成31年2月7日に、第1回目の「プロジェクト演習担当者打ち合わせ」を教員間ネットワーク会議として開催した。                      ・平成31年3月15日、16日に、「発想法の指導に関するFD研修会」を行った。プロジェクト演習担当者を中心にのべ12名の教員が参加した。                      ・次年度のWEBシラバス作成は2月27日時点で100%であった。                      ・各学科・教室の補習・補講に関する取り組み状況のアンケート調査を実施した。                      ・教務と連携して、BYODの実施に向けた、現状把握と問題点についてのアンケート調査を実施した。</p> <p><b>【数学】</b>                      ・学生の基礎学力の涵養と定着および、主体的な学びを促すための、様々な授業形態(ICT活用、グループ学習など)を、継続的に行うことができた。                      ・補習(今年度は20回)を行い、予習および課題による復習を含めた、自学自習による授業外の学習習慣を涵養できた。</p> <p><b>【物理・地学関係】</b>                      ・実験レポートの添削・返却を実験後速やかに返却することにより、学生への効果的なフィードバックを行ない、全クラスに展開している。                      ・2年生の力学を前期前半にし、1年からの接続を円滑にした。                      ・1年生の成績不振者を対象に、週1回程度補習を行った(校長裁量経費)、結果、本年度後期中間試験で70%の受講者に成績向上がみられた。                      ・アースサイエンス(地理Ⅱ)を、次年度に向けレポートを参考に見直した。</p>

第3期中期計画 平成30年度年度計画・実績報告

福井高専 平成30年度 年度計画	福井高専 平成30年度 年度計画実績報告
<p>【化学・生物】 昨年と同様に 授業中、演習問題を出題し、その日の授業内容を理解させるよう努める。さらに、毎回授業の終わりに、簡単な宿題を出す。また、実験回数をできる限り増やすように努める。生物については、コアカリキュラムを導入し、授業内容をかなり変更したので、その問題点を検証する。</p> <p>【体育】 実技授業の中で理解する運動能力に関する知識に加え、1学年で履修する保健、4学年で学ぶ生活習慣病対策(ショートレクチャー)を基礎として、自己の体格や体力の推移を縦断的に捉えて考察するレポートを継続して実施する。とりわけ、精度の高いインピーダンス方式体組成計を導入し、皮脂厚法との違いや体脂肪分布についての理解を深め、適度な運動習慣に関連するスポーツ科学的知見を積極的に授業の中で教授していく。</p> <p>【国語】 ・実社会とつながる言語表現の実践としての「手紙書き方体験授業」を行い、キャリア教育的取り組みの一環として継続して実施する。 ・弁論大会などの学校行事、または広報活動(ラジオ番組)、加えて校友会誌編集・発行に際して、学生への指導を通じた支援を継続して行う。 ・選択必修科目を再編・増設することにより、担当各教員の専門と個性を活かし、より幅広い教養とスキルを身につける機会を提供できるよう、配慮する。</p> <p>【社会】 ・過年度より実施しているアクティブラーニングを取り入れた授業実践について、担当者間で授業見学を行いながら、引き続きその改善について議論する。 ・モデルコアカリキュラムに準拠した本校の新カリキュラム実施のため、社会科教員間の中期的な役割分担にもとづいて授業を検討・実践する。授業実践により生じる課題を精査しその解決策を議論するとともに、今後の円滑かつ着実なカリキュラム実施のための授業方法や評価方法を検討する。</p> <p>【英語】 ・基本的な英語知識の取得と実践的な運用能力の育成を目標とした授業実践を行う。低学年においては、基礎的な文法・表現学習と、身近な話題を中心としたコミュニケーション活動をバランスよく取り入れた授業を実践する。高学年、専攻科においては、より発展的・実践的な英語運用の機会を設けた授業実践を行う。また、英語や海外に対する興味を喚起するための支援を行う。</p> <p>【専攻科】 ・技術者教育ワークショップの研修等に教員を派遣し、エンジニアリングデザインに関する教育力のスキルアップに努める。</p>	<p>【化学・生物】 授業中にできるかぎり演習問題を取り入れ、理解を深めるようにした。特に後期は授業に集中していない学生に対応するために、授業中に問題集をさせて、授業後提出させた。宿題については現在不十分な状態であり、今後も模索したい。また実験回数を増やすことは授業回数から、なかなか難しく、何か方法を検討する。 生物ではこれまでの講義内容の一部を廃止し、コアカリキュラムの講義内容の生態学を導入した。しばらくはこの内容で取り組み、今後は講義内容を精査していきたい。</p> <p>【体育】 ・今年度導入した高精度体組成計(インピーダンス法)によって全員が各自の体脂肪率を測定することができたが(100%)、インピーダンス法に関する誤差要因についてはレポートには多く考察されていなかった(20%程度)。測定法の違いによる注意事項についての認識を今後一層深めさせたい。 ・1学年での保健では基本的な生活習慣が重要であることを学習させ、且つ、継続して実施してきた4年生のショートレクチャーでは、生活習慣病対策としての身体運動の科学的理解を促したことがレポートの記載から読み取れた。健康づくりに関する認識は培われてきたため、今後はより活力ある高次の体力増進への動機づけを図り、屈強なエンジニアの育成に貢献したい。</p> <p>【国語】 ・今年度も「手紙書き方体験授業」として暑中見舞いの書き方指導を行った。実際に投函され配達されることで、相手(昔の恩師)から返信があり、旧交を温める学生もいた。 ・例年どおり、弁論大会の選手講習会を実施したほか、今年度は全般に運営に協力した。ラジオ番組や「高専フォーラム」など外部イベントで話す学生の話し方指導も継続した。校友会誌にも作文の執筆指導と提供というかたちで協力した。 ・再編・増設した選択必修科目は、特に後期は三科目フル開講となり、バラエティーに富んだ国語国文の教養を涵養しているところである。</p> <p>【社会】 ・アクティブラーニングを取り入れた授業の改善については、歴史を中心に指導・評価方法を体系化し、外部資金の報告書等を活用して外部への発信も行なった。また、p4cの試験導入も行った。 ・新カリキュラム実施のために社会科で確認した役割分担や授業の内容について、校内各部署との協議を開始し、実施に向けた準備のロードマップを共有した。また、2022年度における工学倫理の導入に向け、教材の収集を開始し、20冊程度を購入し、それらの教材研究を開始している。</p> <p>【英語】 基本的な英語知識と実践的な運用能力の育成を目的として、以下のことを行っている。 1) 低学年においては、文法項目の指導と日常的な話題を中心としたコミュニケーション活動を行っている。また、コミュニケーション活動の評価としてパフォーマンステストを実施している。高学年においては、プレゼンテーション活動、TOEIC対策演習、eラーニングなど、授業だけでなく授業外での学習にも配慮しながら指導を行っている。 2) 全学年で共通の語彙学習教材を用いて、クラスの状況に応じて演習や試験を行いながら基礎学力の向上を図っている。 3) 課外活動として、5月、6月、7月、11月、12月、1月に「イングリッシュカフェ」と称し、海外での留学経験や学習経験のある教員、学生によるセミナーを開催した。今後はTOEIC、工業英検などの各種対策講座に加え、「イングリッシュカフェ」も継続的に実施する予定である。 4) 5月に第4学年全学生を対象にTOEICIPの一斉受験、11月に第1学年全学生を対象に工業英検の一斉受験を実施した。</p> <p>【専攻科】 ・12月5日に開催されたJABEEの新しい審査基準の講習会に教員を派遣した。</p>
<p>・「高専学生情報統合処理システム」の導入に向けての活動を継続する。</p>	<p>・「高専学生情報統合処理システム」の導入に向けての活動を継続している。</p>

第3期中期計画 平成30年度年度計画・実績報告

福井高専 平成30年度 年度計画	福井高専 平成30年度 年度計画実績報告
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア支援室を中心として、学生の資格取得状況を把握するとともに、キャリアパス構築の一つとして資格取得を奨励する。</li> <li>・JABEE教育プログラムに関して、中間審査を受審し質の保障を継続的に行う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の交流活動に関する情報を公開し、希望者に対しての支援を積極的に行う。</li> <li>・学生と学外の人たちとの積極的なコミュニケーションの場を設けるため、学生にオープンキャンパスや公開講座等へのスタッフとしての参加を促す。</li> <li>・海外からの短期留学生の受け入れに対し、受け入れ態勢を整備する。また、日本人寮生との交流会を実施し、双方の国や学校に関するプレゼンテーションなどを通じて、寮生の知見を深めるとともに、コミュニケーション能力の向上を図る。</li> <li>・学生と学外の人たちとの積極的なコミュニケーションの場を設けるため、学生に出前授業や公開講座等へのスタッフとしての参加を促す。</li> <li>・体育系の部活動において舞鶴高専との交歓試合を実施し、交流を深める。</li> <li>・他高専学寮との寮生間交流活動を継続して促進することにより、寮生の自主的活動を基軸にした寮生会教育指導の充実と質的向上を図る。</li> <li>・海外からの短期留学生が在寮する際、日本人寮生との異文化間交流会を実施する。具体的には双方の国や学校に関するプレゼンテーションなどを通じて、寮生のグローバル意識を深めるとともに、英語コミュニケーション能力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア支援室を中心として、学生の資格取得状況を把握するとともに、キャリアパス構築の一つとして各種資格取得を継続して奨励した。</li> <li>・10月28、29日の日程でJABEE中間審査を受審した結果、受審後の講評(暫定)では[C]がA又はCの評価に、WがA評価となり、本校の「環境生産システム工学」教育プログラムはJABEE認定された。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の交流活動に関する情報を公開し、希望者に対しての支援を積極的に行っている。</li> <li>・学生と学外の人たちとの積極的なコミュニケーションの場を設けるため、学生にオープンキャンパスや公開講座等へのスタッフとしての参加を促している。オープンキャンパス後のアンケートでは学生のプレゼン能力に感嘆する内容が多くあった。</li> <li>・海外からの短期留学生の受け入れに対し、受け入れ態勢を整備する。また、日本人寮生との交流会を実施し、双方の国や学校に関するプレゼンテーションなどを通じて、寮生の知見を深めるとともに、コミュニケーション能力の向上を図っている。今年度は6月28日から7月30日にかけて、タイ王国のプリンス・オヴ・ソングラ大学工学部から短期留学生男子2名女子1名を受け入れた。また6月17日から7月13日まで同じくタイのキングモンクット工科大学から短期留学生男子2名を受け入れた。</li> <li>・マレーシア人事院総裁一行が本校を訪れ、マレーシア政府派遣留学生と懇談し、その後、留学生が学校内を案内した。</li> <li>・舞鶴高専との交換試合(5月)を舞鶴高専と共同開催し、男女バスケットボール部、男女バレーボール部、サッカー部、柔道部、剣道部、バドミントン部、ハンドボール部の9団体が交流を深めた。</li> <li>・16件の出前授業において、延べ20名の学生がスタッフとして出前授業を支援し、延べ781名の参加者と交流した。また、公開講座では、21講座において、延べ19名の学生がスタッフとして支援し、延べ212名の参加者と交流した。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月10日に、津山高専学寮関係者(教職員4名、寮生14名)及び和歌山高専学寮関係者(教職員2名、寮生13名)を本校にお迎えし、3高専合同寮生交流会(学生寮ご視察を含む)を実施した。教職員間についても各種情報交換等を行なった。この結果、特に寮生会活性化計画策定につながった。</li> <li>・12月8、9日に豊山高専学生寮を訪問(本校学寮関係教職員4名、寮生20名)し、同高専との学生寮交流事業を計画通り実施した。</li> <li>・近年、海外からの短期留学生の受け入れに対し、受け入れ態勢を整備しており、その結果、日本人寮生との交流会を実施し、双方の国や学校に関するプレゼンテーションなどを通じて寮生の知見を深めるとともに、英語及び日本語のコミュニケーション能力の向上を図っている。本年度は、6月28日から7月30日にかけて、タイ王国のプリンス・オヴ・ソングラ大学工学部から短期留学生男子2名女子1名を受け入れた。また6月17日から7月13日まで同じくタイのキングモンクット工科大学から短期留学生男子2名を受け入れた。7月3日には3名の短期留学生と本校学寮寮生間の交流会を開催した。寮生会役員を中心に60名以上の寮生が自主的に参加することにより、大変有意義な国際交流事業となった。</li> <li>・上記はいずれも過去5年においても常に重点項目として取り組んでいる。取り組みの継続性や実績の履歴からも方針は妥当であると判断できる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の教員が個々に行っている特色ある教育実践例の内容をFDの一環として他の教員に紹介する場を多く設ける。</li> <li>・来年度から第4学年に開講するプロジェクト演習の詳細を決定する。</li> <li>・専攻科におけるエンジニアリング・デザイン能力育成科目「創造デザイン演習」、英語力育成科目「現代英語」、「技術者英語コミュニケーション演習」の授業内容及び評価方法の改善を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月27日の平成30年度第1回FD講演会において、平成28年度の授業アンケートで、学生の評価が高かった教員3名が、授業での工夫点などを講演した。</li> <li>・「学際カリキュラム」の、平成31年度から4年生で実施する「プロジェクト演習」の実施方法について検討を行い、担当教員向けの資料(案)を作成した。</li> <li>・「創造デザイン演習」では、授業のスケジュール等の改善を行い、評価方法等についても検討を行った。「現代英語」「技術者英語コミュニケーション演習」についても授業の進捗や発表会開催日の調整を行い、評価方法等についても改善を図った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検・評価を継続的に実施し、報告書を作成しホームページにて公表し、学校運営の透明性を保つ。</li> <li>・平成31年に予定している認証評価受審に備え、プロジェクトチームを立ち上げ、教育システムの再点検と関係資料の整理など準備作業を開始するとともに情報の共有を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度の自己点検・評価報告書は6月末に発行し、7月中に関連部署に送付するとともに、Webページで公開した。</li> <li>・認証評価ワーキンググループでは、4月から10月までに都合6回の会合を催し、「自己評価書」の原案作成及び根拠資料の収集状況の確認を行った。</li> </ul>

第3期中期計画 平成30年度年度計画・実績報告

福井高専 平成30年度 年度計画	福井高専 平成30年度 年度計画実績報告
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科では全員参加を基本としてインターンシップの受け入れ先の確保を目指す。また、専攻科のインターンシップは必修単位で、専攻科生全員にインターンシップに参加させる。</li> <li>・インターンシップ前には本科生を対象に事前ガイダンスを行う。また、インターンシップ後は報告書を作成し報告会を実施する。</li> <li>・インターンシップ先には本校教員が訪問し、実習学生の状況を把握するとともに、就職採用に関する情報収集を行う。</li> <li>・本校主催のキャリア教育セミナー(合同企業説明会)において、参加企業に対し本校のインターンシップの案内を行い、受け入れ先の確保・増加に努める。</li> <li>・これまでKOSEN4.0イニシアティブとして実施してきた地元企業との共同教育を継続して実施する。</li> <li>・産学連携コーディネーターを活用し、キャリアアップを目指したインターンシップを推進する。なお本件は福井県が行う「県内大学の地域人材育成支援事業」に基づき実施する。</li> <li>・専攻科の学生を対象として地元企業に根ざした海外インターンシップへの参加促進を図る。</li> <li>・専攻科の学生を対象として、地元企業の海外拠点を活用したインターンシップへの促進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科生198名、専攻科生21名のインターンシップを実施した。</li> <li>・本科4年生を対象にインターンシップ事前ガイダンスを7月11日に実施した。また、インターンシップ報告会を、専攻科生は10月10日に、本科生は10月22日に実施した。</li> <li>・8月～9月に教員が分担してインターンシップ受入先を訪問し、提出された企業訪問報告書を関係教員が閲覧できるようにして情報共有を図った。</li> <li>・3月1日に実施したキャリア教育セミナー(合同企業説明会)では、参加した150社の企業・公的機関に対して本校のインターンシップの案内を行った。</li> <li>・インターンシップ受け入れまでのフローを見直して、受け入れを希望する企業とマッチングしやすいように申込みの様式を新設した。</li> <li>・本校地域連携アカデミア会員企業に対してキャリア教育セミナー(合同企業説明会)におけるブースの出展料の一部を割引く制度を適用し、参加を促した。その結果48社が参加した。</li> <li>・福井県の補助金「県内大学の地域人材育成支援事業」に基づいて産学連携コーディネーターを任用し、県内企業へのインターンシップ受入れ依頼および産学協同研究案件の掘り起こしを毎月のように行った。企業訪問は次期中期計画期間においても継続して積極的に行っていく予定である。</li> <li>・7月4日に地元ロータリークラブの協力を得て3名の学生が地元企業を訪問して企業活動への理解を深めた。このプロジェクトはロータリークラブ内で評判となり始めており、他のクラブメンバーの会社からも訪問希望が表明されているようである。今後も継続して実施していきたい。</li> <li>・11月7日に高専生対象のアカデミア企業見学会を実施し、5名の学生が参加した。</li> <li>・夏季休暇中、海外インターンシップとして地元企業の海外拠点に2名の専攻科学生を派遣した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科のものづくり系実験実習科目において知的財産の専門家を任用し、知的財産教育を行う。また、専攻科1年生等を対象に知的財産に関する講習会を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻科1年生に対し7月に外部から専門家を招いて企業研修(インターンシップ)を受ける際の注意点など知財取り扱いの実際について教育した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡技術科学大学「アドバンスコース」の推進に継続的に協力する。</li> <li>・長岡・豊橋両技術科学大学との「三機関が連携・協働した教育改革」の推進に協力する。</li> <li>・ISATE2018に教員を参加させる。</li> <li>・ISATE2018(香港IVE)に教員を参加させる。</li> <li>・ISTS1018(未定)に学生を応募させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡技術科学大学「アドバンスコース」の推進に継続的に協力している。本年度は本科5年生が6名受講している。</li> <li>・ISATE2018に教員1名が参加し発表した。</li> <li>・8/18～21に香港IVEで開催されたISATE2018に教員1名が参加し、「A case study on blended learning in technical English teaching at the National Institute of Technology」のタイトルで研究成果を発表した。</li> <li>・ISTS1018(タイ、キングモンクット工科大学ラカバン校)については応募する学生の該当者がいなかった。</li> <li>・ISATEについては毎年1名の教員が参加することが定着しつつある。ISTSについては応募資格にTOEICのスコアが利用されるようになり、採択基準が厳しくなってきたため、学生の英語力向上が必要である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業等へのICTおよびAL活用に積極的に取り組むため、創造教育開発センター内に立ち上げたWGの活動を継続し、先行事例と活用法のデータを収集・公開する。</li> <li>・ICT導入・活用のためのインフラ整備(Wi-Fi回線容量の増強)に努める。</li> <li>・学内のWiFi環境の増強やBYOD導入検討も含めた教育状況の実態調査を行う。</li> <li>・創造教育センター内のALに関するWGを支援し、学内におけるALの先行事例の周知及びAL型授業の導入を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務主事と創造教育開発センターが連携して、BYODの実施に向けた、現状把握と問題点についてのアンケート調査を実施した。</li> <li>・年4回開催されている第3ブロックAL推進研究会に、平成30年度は3回(第13回、第15回、第16回)参加することができた。</li> </ul>
<p>(5) 学生支援・生活支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に対してきめ細やかな対応をするため、通常のメンタルヘルス対応に加え、メンタルヘルスが必要な学生に対する学習支援・キャリア支援に対応できる体制を整備するとともに、ハード面での整備も進める。</li> <li>・カウンセラーや精神科医等とも連携し、支援の必要な学生に対して適切に対応できるように学生相談体制の充実を図る。</li> <li>・学生相談室においてメンタルヘルス関連のアンケートやハイパーQUテストを実施し、そのアセスメントの実施とともに学生の状況把握に努める。</li> <li>・校外におけるメンタルヘルス関係の研修会等へ関係教職員を積極的に派遣し、情報共有と教職員の資質向上に努める。</li> <li>・卓越した学生に対する授業料免除を継続して実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「STOPいじめ」と題したいじめ防止パンフレットを全学生に配布した。</li> <li>・9月から10月にかけて保護者アンケートを実施した。</li> <li>・学生相談室において学生のメンタルヘルスマネジメントを十分に行うため、専攻科生も含めた全学生対象に、ハイパーQ-Uテスト(6月)、高専生活に関するアンケート(10月)を実施した。</li> <li>・メンタルヘルス対応のために、精神科医が今年度はこれまで計6回来校予定し、相談業務を行った。また、カウンセラーの来校日を週3日から週4日に拡充した。また、学生の相談機会の間口を広げるため、試験的に学年末試験後においてもカウンセラーの待機態勢をとった。</li> <li>・学習面での問題に起因した悩みの解消の場として「第2学生相談室」を新設し、規則関係の見直しを経て、5月から運用を開始した。</li> <li>・新入生オリエンテーション(4月)において、1年生の全学生を対象に、学生主事、学生相談室長等が高専の学生としての心構え、学校生活の過ごし方などについて説明した。特に、ネットトラブル防止に関するワークショップを行い、意識を高めた。昨今のネットトラブルに関する社会事情を鑑み、11月から12月にかけて、地元警察署スクールサポーターによる研修を各学年で延べ5回実施した。</li> <li>・年度当初に、1年生の全クラスを学生相談室長及び看護師、カウンセラーが訪問し、カウンセリング体制についての紹介を行った。</li> </ul>



第3期中期計画 平成30年度年度計画・実績報告

福井高専 平成30年度 年度計画		福井高専 平成30年度 年度計画実績報告
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員を対象としたメンタルヘルス講演会(9月)に、上級教育カウンセラーの石丸裕士奈良高専准教授を講師として招き、「ハイパーQUを用いた学生把握の具体的方策と学生指導改善事例の紹介」と題した講演会及び意見交換会を開催し、教職員42名が参加した。</li> <li>・教職員を対象とした特別支援校内研修(11月)に、福井県特別支援教育センター指導主事の為国順治氏を講師として招き、「障害学生に対する合理的配慮の考え方・校内事例の共有」と題した講演会及び意見交換会を開催し、教職員56名が参加した。</li> <li>・学生相談に関するスキルアップのために、自殺予防やいじめ防止を含む県内外12の研修会に延べ18名が参加した。</li> <li>・卓越した学生に対する授業料免除を継続して実施し、本年度は2名の学生を卓越した学生として選定した。</li> <li>・特別支援室を継続的に運用し、身体障害者2名及び発達障害者1名に対して配慮した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該年度の入寮希望者数を予測し、必要な場合は、居住棟の増設、浴室や食堂等の関連施設の改修、シャワー室などの整備等について検討と計画作成を行ない、機構に対して整備を要望する。</li> <li>・居室等も含めた学寮施設全体の老朽化の状況等を総合的に調査し、早急な対応が必要な事案を優先しながら、今後の改善について検討と計画作成を行う。</li> <li>・現在食堂等で実施している学寮生の自学自修制度(低学年学習指導他)の一層の促進のために、ラーニングスペース等の整備について検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学寮運営委員会や教育システム推進委員会との連携のもと、寮生対象の寮生活全般に関するアンケートを毎年実施しているが、PDCAサイクルにのっとり施設現状の把握や改善等につながるように質問項目等の見直し作業を行ない、1月末に全寮生を対象に実施した。生活環境や習慣、さらには学習一般に関する設問であったが、どの項目でも、前年比で自己意識の向上が見られた。</li> <li>・施設については随時調査や、毎月開催の寮生会役員区長会で情報収集しており、バランスの取れた改修・整備を実施している。具体的には、居室の網戸交換、ベッド破損状況調査と修理、補食談話室のガスコンロ交換、女子寮セキュリティ用PCの更新や学寮の防犯カメラ増設等を実施した。</li> <li>・上記はいずれも過去5年においても常に重点項目として取り組んでいる。取り組みの継続性や実績の履歴からも方針は妥当であると判断できる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独立行政法人日本学生支援機構などと緊密に連携し、各種奨学金制度などの学生支援に係る情報を学生に提供する。周知方法については、掲示物の工夫だけでなく、電子掲示板等での即時性を確保した伝達方法を工夫する。</li> <li>・産業界等の支援による奨学金制度に関する情報をホームページ及び掲示等で学生に提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本学生支援機構等の奨学金制度などについて、掲示板(電子掲示板を含む)およびホームページでの周知とともに担任を経由して情報発信した。特に、就学支援金から授業料免除に切り替わる学年(第4学年)への周知を徹底するため、ポスターを作成し掲示するとともに、通知漏れ防止のため3年生全員に対してポスターを含めた周知資料を配布した。</li> <li>・日本学生支援機構奨学生は31名、その他奨学生は18名であった。また、入学料徴収猶予許可者は2名、授業料免除対象者は、全額免除延べ51名、半額免除延べ56名、卓越した学生全額免除は2名であった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路情報(求人票、帰校届、編入学試験問題など)のフォルダの内容を更新し、学生に利用を促す。また、全国高専共通利用型進路支援システムを継続して活用し、パソコンで求人情報の検索が容易にできるよう利便性を図る。</li> <li>・キャリアガイダンスを学年毎に行い、キャリア形成や職業意識の向上に努める。</li> <li>・女子学生に向けたキャリア形成講習会を実施する。</li> <li>・卒業生による先輩講座や、在学生による先輩フォーラムを実施して、進路決定までの体験を伝える。</li> <li>・大学・大学院合同説明会やキャリア教育セミナー(合同企業説明会)を開催する。</li> <li>・専攻科1年および本科4年を対象に就職対策講座を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が閲覧できる求人票や帰校届などの進路情報フォルダの内容を最新のものに随時更新した。進路支援システムを継続して運用し、利用案内を教室に掲示した。</li> <li>・1年生対象のキャリアガイダンスを5月24日に実施した。</li> <li>・2年生を対象に、7月12日に卒業生による先輩講座を実施した。11月8日に在学生による先輩フォーラムを開催した。</li> <li>・女子学生向けキャリアガイダンスを12月6日に実施した。</li> <li>・大学大学院合同説明会を10月27日に開催し、本科と専攻科を合わせて82名が参加した。</li> <li>・キャリア教育セミナー(合同企業説明会)を3月1日に開催し、150社の企業が出展し本科3・4年専攻科1年が参加した。</li> <li>・専攻科1年本科4年を対象に就職対策講座を2月14日に実施し、模擬面接などを行った。</li> </ul>
(6) 教育環境の整備・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(6)教育環境の整備・活用</li> <li>・福井高専キャンパスマスタープランに基づき、教育研究活動及び施設・設備の老朽化状況等に対応した改修や環境整備を積極的に推進する。平成30年度の教育環境の整備事業として、本校空調設備で設置後18年以上経過し、故障トラブルが頻発している物質工学科科新棟、専攻科1階・4階及び総合情報処理センターの一部の空調設備について、今後の教育研究に支障が無いように空調設備の改修工事を実施予定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井高専キャンパスマスタープランに基づき、教育研究活動及び施設・設備の老朽化状況等に対応した改修や環境整備を積極的に推進している。平成30年度の教育環境の整備事業として、本校空調設備で設置後18年以上経過し、故障トラブルが頻発している物質工学科科新棟、専攻科1階・4階及び総合情報処理センターの一部の空調設備について、「福井工業高専専攻科等空調設備改修工事」を発注し平成30年7月17日に着工し10月12日に完成した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽劣化した外壁・非構造部材等で落下等の危険がある場合又は危険が予測される場合は、早急に対策及び補修を行い、学生・教職員の安全な就学・就労環境を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年10月30・31日で構内の建物及び工作物の緊急点検を実施した結果、武道場東側自転車置場一部鉄骨部材に腐食の進行が確認された。平成31年3月に補修工事を完了した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井高専のPCB廃棄物は、平成29年度中に処理を完了した。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>②-1 実験・実習開始当初に安全教育を行うことを徹底する。</li> <li>②-2 各実験・実習の現場でのヒヤリ・ハット事例を収集する等、「実験実習安全必携」に代わる本校独自の安全教育を周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・実習開始当初に必ず安全教育を行うことをシラバスに明記し徹底させている。</li> <li>・就業環境について月1度の定期巡視を行い、危険箇所の把握と指摘、状況改善を継続的に行った。</li> <li>・救命救急法の講習会を年2回実施し、学生及び教職員が緊急対応の研修を受講した。</li> </ul>

第3期中期計画 平成30年度年度計画・実績報告

		福井高専 平成30年度 年度計画	福井高専 平成30年度 年度計画実績報告
		<ul style="list-style-type: none"> <li>女性教員等に対して、高専機構による研究活動を支援する研究支援員配置事業の周知を行い、同事業の促進を図る。</li> <li>女性教職員の就業環境を個人の状況に合わせて考慮し、ワークライフバランスに配慮した運営を行う。</li> <li>育児や介護等による休業を取得しやすい環境づくりに努めると共に、個人の要望に基づき支援員の配置を要請していく。</li> <li>引き続き女性教員の比率向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性教員等に対して、高専機構による研究活動を支援する研究支援員配置事業の周知を行い、同事業の利用を促している。</li> <li>平成30年度については、女性教員の育児休業取得の実績はないが、取得しやすい環境整備に努めている。</li> <li>教職員の就業環境を個人の状況に合わせて考慮し、ワークライフバランスを推進する。</li> <li>毎年7月、校長が全教員との面談を実施し、教員一人一人から要望等を聞く場を設けている。</li> <li>教員を公募する際、「女性優先」と付記し、女性教員の比率向上に努めている。</li> <li>現在、女性職員1名が育児休業を取得中である。</li> </ul>
2	研究や社会連携に関する事項	2 研究や社会連携に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>テクノセンター主催のJOINTフォーラム、アカデミア会員企業見学会、産官学交流会を開催し、地域の企業や官公庁との連携を図る。また全国高専フォーラムなどで本校の産官学連携活動や共同研究の成果を発表する。</li> <li>外部資金の情報を積極的に学内提供し、資金獲得に向けて支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高専生対象のアカデミア会員企業見学会を11月7日に実施し、5名の学生が参加した。</li> <li>アカデミア企業対象の企業見学会を11月21日に実施し、7社12名の参加者があった。</li> <li>産学連携イベント「JOINTフォーラム」を本校主催で12月12日に開催し、90名を超える参加者があった。またこれに合わせ、地域連携アカデミア主催で異業種交流会を開催し、参加者同士の交流を図った。</li> <li>機構本部等からもたらされる外部資金の情報を学内で共有し、資金獲得に向けての努力を継続的に行っている。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>本校主催のJOINTフォーラムや福井県内で開催予定の北陸技術テクノフェアなどにおいて共同研究の成果を発表する。また産学連携コーディネーターを引き続き任用して共同研究の受入を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月12日に開催した産学連携イベント「JOINTフォーラム」において本校での研究シーズを23件のポスターとして紹介した。</li> <li>産学連携コーディネーター1名を継続して任用しており、共同研究の受入れ促進を鋭意図っている。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>知的財産コーディネーターを継続採用して卒業研究や特別研究から職務発明に結びつける仕組みを検討する。また、教員対象の知的財産・技術相談講習会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的財産分野のコーディネーター1名を継続して任用しており、学生の教育面だけではなく教職員に対して職務発明に関する支援業務を行っている。</li> <li>職務発明として、発明等届2件(特許1件、意匠1件)の申請があった。どちらも学校裁量となったため本校知財委員会にて審議のうえ、特許については外部資金による本校からの出願(他機関との共同出願)を行い、意匠については、本校からの出願を行わないこととした。なお、このうち意匠に関しては、卒業研究から生まれたもので、指導教員及び学生による考案であった。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の産官学連携活動と教職員の研究シーズを紹介する冊子「JOINT2018」を発行する。</li> <li>研究設備と研究設備利用規則を掲載した冊子「ラボガイド」を活用し、共同研究の推進に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月に本校の産学連携関係冊子「JOINT2018」を発行した。</li> <li>学内の研究設備を紹介する冊子「ラボガイド」を学外に積極配布し、関連設備の外部利用や共同研究の推進につながるよう努力してきた。その結果、ほぼ毎月1件の技術相談が寄せられるようになった。これは産学連携コーディネーターを伴った定期的な企業訪問との相乗効果と思われ、来期(第4期中期計画)も継続的な実施を計画したい。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の特徴的な実験設備などを用いた公開講座の実施を通して、科学教育の啓発と高専のブランド力向上に努める。</li> <li>文化・歴史・語学等人文系の講座を幅広く開講し、「KOSEN Cafe」として地域への浸透を図る。</li> <li>地元自治体並びに小中学校や公民館等と連携し、ものづくりやデモ実験を中心にした出前授業や科学イベントに積極的に参画して理科教育支援と本校のプレゼンス向上に寄与する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は計21件の公開講座を開講し、うち19講座を実施して参加者の好評価を得ている。これにより地元への高専のブランド力向上に資することとしている。</li> <li>この10月から4回の予定で、市民向け講座「KOSEN Cafe」を理工系だけでなく人文社会系にも広げて実施した。その結果、4回で計73名の参加者があった。アンケートの結果、95%の参加者が「大変面白い」「面白い」と評価しており、このイベントは今期(第3期中期計画)から始めたものであるが、地域住民の間にだんだん定着しつつあると思われる。来期(第4期中期計画)も毎年実施していきたい。</li> </ul>
3	国際交流等に関する事項	3 国際交流等に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>本校協定校のプリンスオブソンクラ大学工学部(タイ)からの短期留学生を受け入れる。</li> <li>機構協定校のキングモンクット工科大学ラートクラバン校(タイ)からの短期留学生を受け入れる。</li> <li>本校協定校のフェデレーション大学(オーストラリア)に学生を派遣する。</li> </ul>	3 国際交流等に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>本校協定校のプリンスオブソンクラ大学工学部(タイ)から機械工学に2名、電子情報工学科に1名の短期留学生を5/28～7/31の約2ヶ月間受け入れた。</li> <li>機構協定校のキングモンクット工科大学ラートクラバン校(タイ)から環境都市工学科に2名の短期留学生を6/18～7/13の約1ヶ月間受け入れた。</li> <li>2019/3/18～28、本校主催のグローバルエンジニアになるためのオーストラリア研修旅行をメルボルン市近郊のウイリアムズタウンで実施した。11/6と11/13の計2回、説明会を実施した結果、全学科の1～4年生から計32名が参加した。</li> <li>タイの大学からの短期留学生の受け入れ、ならびに、本校学生のオーストラリア研修旅行への参加者は年々増加傾向にある。今後、その事業を継続し、内容を充実させる必要がある。</li> </ul>

第3期中期計画 平成30年度年度計画・実績報告

	福井高専 平成30年度 年度計画	福井高専 平成30年度 年度計画実績報告
項	<ul style="list-style-type: none"> <li>トビタテ！留学JAPANに学生を応募させる。</li> <li>海外の企業または大学における海外インターンシップに学生を参加させる。</li> <li>海外留学等の実績をホームページ等で公開するなど、参加希望者の増加に向けた取り組みを行う。</li> <li>海外インターンシップの実績をホームページ等で公開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トビタテ！留学JAPAN大学生コースに2名の学生が応募した。</li> <li>専攻科1年生の海外インターンシップにおいて、株式会社エイチアンドエフ(マレーシア、8/17-9/12)に1名、株式会社村田製作所(フィリピン、8/29-9/14)に1名、日本電気硝子株式会社(フィリピン、3/4-22)に1名の計3名が研修を行った。</li> <li>11/15に「学生の海外研修報告会」を学内で開催し、留学や海外インターンシップの実績を学生や教職員に公開し、参加希望者の増加に向けた取り組みを行った。</li> <li>「トビタテ！留学JAPANに関する説明会」を4/18(福井県主催)、9/27(高専機構主催)、10/30・11/15(本校主催)の計4回学内で開催し、同事業への申請を促した。</li> <li>毎年、専攻科生が海外インターンシップに参加し、また、トビタテ！留学JAPANに応募することが定着しつつある。今後も、学生が海外研修にチャレンジする意識付けのための事業を継続的に実施する必要がある。</li> <li>海外インターンシップの実績をホームページで公開した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>受入れ留学生の学習環境及び居住環境の維持向上に努める。</li> <li>受入プログラムの拡充に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受入れ留学生の学習環境及び居住環境の維持向上に努めている。</li> <li>「北陸地区高専間留学生交流会」(6月23日)に5名の留学生が参加し、他高専の留学生との交流を図った。</li> <li>短期留学生として、タイ王国のプリンス・オヴ・ソククラ大学工学部から男子2名・女子1名(5月28日～7月30日)、同国キングモンクット工科大学ラートクラバン校から男子2名(6月18日～7月13日)を受け入れ、本校の受入れプログラムに沿った学習を教授するとともに、日本文化を体験する交流会、寮生との交流会を実施した。</li> <li>マレーシア人事院総裁が本校を表敬訪問(10月19日)し、同国からの留学生に校内を案内してもらった。</li> <li>以上のことから、受入プログラムの拡充については順調に進展した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校に在籍する外国人留学生に対する研修会や交流会を開催し、我が国の人々や文化、自然に触れる機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北陸地区高専間留学生交流会に参加した。</li> <li>本校への短期留学生との交流会を国際交流室、茶道同好会と企画し、本校留学生に日本文化を体験させた。</li> <li>本校の留学生交流会で京都の世界遺産を見学した。</li> <li>以上のことから、留学生に我が国の文化を体験させる機会を十分に設けている。</li> </ul>
4 管理運営に関する事項	<p>4 管理運営に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校長のリーダーシップのもと、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。</li> <li>報告、連絡、相談がスムーズにでき、PDCAが円滑に回るような運営体制の維持と機能向上に努める。</li> </ul> <p>②-1 運営会議等を通して、学校の運営に関する基本的な意見を聴取するとともに、個人的な事項に関しては、校長による教員面談及び事務部による個人面談等により意見を聞き、本校における今後の管理運営の参考とする。その他必要に応じて、ブロック校長会議などにおいて広域的な視点で意見交換を行う。</p> <p>②-2 管理職研修会に運営に携わる教員を派遣する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会議時間の短縮を図るために資料の事前配布を行うことを校内に周知するなど、事務の合理化・効率化について引き続き積極的に取り組んでいく。また、事務部門のペーパーレス化を推進するため、全執務室での無線LAN利用環境を整備することで、ペーパーレス会議の実施を検討する。</li> <li>機構本部が作成したコンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して、教職員のコンプライアンス意識の向上を行う。</li> <li>普段の情報共有体制を精査し、Fail-Safeの機能充実に努める。</li> <li>講演会・講習会などを行い、教職員のコンプライアンス意識涵養に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長のリーダーシップのもと、戦略的かつ計画的な資源配分として、15件3,870千円を配分した。</li> <li>運営連絡会、学校運営会議で決定したことを教員会議で全教員に伝え、それぞれの会議の場で意見等を聴取し、常にPDCAが円滑に回る体制を維持し、向上を図っている。また、事務系についても、事務連絡会議を開催し、情報伝達、意見聴取を行っており、常にPDCAが円滑に回る体制を維持し、向上を図っている。</li> <li>7月27日～8月6日にかけて、校長による教員面談を実施した。また、5月、10月、3月に事務部において所属長による個人面談を実施した。</li> <li>9月5日～6日に開催された機構主催「教員管理職研修」に校長補佐(寮務主事)1名を派遣した。</li> <li>学校運営会議、教員会議について、資料は会議日の前日に配付し、確認を依頼しており、効率化を図った。</li> <li>12月に全教職員138名を対象者にコンプライアンスセルフチェックを行い、意識向上を図った。(全教職員提出済)</li> <li>新任教職員オリエンテーション(4月2日開催)の際、コンプライアンスに関する講習を行い、コンプライアンス意識の向上を図った。</li> <li>総務課長より教員会議(4月26日開催)で公的資金の適正な管理及び執行について周知した。併せて財務係長より研究推進委員会(4月11日開催)においても周知した。</li> <li>機構本部主催の平成30年度研究推進担当責任者説明会(9月5日)で実施されたTV会議を全教職員(136名)が録画視聴し、公的研究費の不正防止に努めた。</li> <li>会計監査人による地区別研修会(テレビ会議12月11日開催)において、有限責任監査法人トーマツより「公的研究費の不正防止に関するコンプライアンス研修」が開催され、総務課財務系職員(8名)が受講し、コンプライアンス意識の向上を図った。</li> <li>東海・北陸地区会計系事務職員ブロック研修会(テレビ会議2月4日開催)において、有限責任監査法人トーマツより「会計実務研修会」が開催され、総務課財務系職員(7名)が受講し、コンプライアンス意識の向上を図った。</li> <li>平成30年度会計監査人による期中監査において、適正な財務諸表を作成するための指導をしていただいた。</li> </ul>

第3期中期計画 平成30年度年度計画・実績報告

福井高専 平成30年度 年度計画	福井高専 平成30年度 年度計画実績報告
<p>・高専相互会計内部監査を実施し、他高専と情報を共有して必要なことは速やかに改善する。また、学内定期監査も実施し、適正な執行状況の維持に努める。</p>	<p>・平成30年度高専相互会計内部監査として、平成30年11月15日～16日、富山高等専門学校において監査を行い、併せて両校と会計事務関係等の情報交換を行った。また同年12月から平成31年1月までの間、総務課職員による学内定期監査を実施し、不正経理の防止に努めた。</p>
<p>・平成24年3月の理事長通知「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の徹底について」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン(平成26年2月18日改正)」の実施を徹底し、不適正経理を防止する。</p>	<p>・全ての場合において、教員発注を認めてはならず、必ず総務課契約係に購入依頼書を提出するよう周知徹底している。また、納品検収については、納品検収所で行っており、直接教員室へ納品することがないよう、業者に指導している。なお、新規の業者からは誓約書の提出を依頼している。</p>
<p>・教職員を能力向上のための研修に積極的に参加させるとともに、他機関で実施している研修会にも積極的に参加することで、事務職員・技術職員の一層の能力向上を図る。また、職務に関して特に高く評価できる成果のあった職員に対し、毎年度実施している校長表彰の候補者として積極的に推薦する。</p>	<p>(研修会参加)          &lt;事務職員&gt;          ・7月、8月及び9月に開催された、豊橋技大、長岡岐大、高専機構が連携して行う「グローバルSD(マレーシア・ペナン研修)」に事務職員1名が参加した。          ・9月12日～13日に開催された東海・北陸地区高専係長級事務研修会に係長2名が参加した。          ・11月5日～6日に開催された北陸地区国立大学法人等中堅職員研修会に主任及び事務職員計2名が参加した。          ・12月に開催される北陸地区国立大学法人等人事労務研修に人事労務係主任が参加した。          &lt;技術職員&gt;          7月24日に開催された局所排気装置等定期自主検査者講習会に技術長及び技術職員計2名が参加した。          ・8月1日～3日に開催された東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修会(生物・生命)に技術職員1名が参加した。          ・8月20日～22日に開催された東海・北陸地区技術職員研修会に技術職員2名が参加した。          ・8月24日に開催された東海北陸地区国立大学等安全衛生アライアンスキックオフ会議に技術長1名が参加した。            ・8月29日～31日に開催された東日本地域高専技術職員特別研修会に技術職員1名が参加した。          ・8月29日～31日に開催された東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修会(電気・電子)に技術職員1名が参加した。          ・9月7日に開催された舞鶴工業高等専門学校技術職員研修に技術職員1名が参加した。          ・2月22日に開催された作業環境測定士等対象研修会に技術長及び技術職員計2名が参加した。          ・3月25日までに第3ブロックグローバル高専事業教職員向け英語研修に技術専門職員1名が参加した。            (校長表彰)          ・3月に校長表彰選考委員会を開催、教員及び事務職員を校長に推薦したうえで、全教職員の前で表彰式を行った。(被表彰者5名)</p>
<p>・事務職員の近隣大学との人事交流を引き続き積極的に行う。</p>	<p>・4月、7月に福井大学との間で、係長級及び一般職員の計2名について人事交流を行った。          また、4月に国立高等専門学校機構本部との間で、一般職員1名について人事交流を行った。          ・これまで主に福井大学と人事交流を行ってきたが、昨今の人材不足及び定年退職者の増の影響から福井大学からの交流者の派遣が厳しい状況となっている。引き続き人事交流については、近隣大学を含め実施を検討していく予定だが、交流者数は今後減少していくものと思われる。</p>
<p>・教職員の情報セキュリティ意識向上のため、必要な研修の受講を推進する。          ・情報セキュリティに関するセルフチェックを実施する。</p>	<p>・8、9月で全教職員から、情報セキュリティ強化に係る誓約書を徴収した。常勤教職員118/118、非常勤職員23/23、非常勤講師33/41、学生1,059/1,059          ・10～12月で全教職員138名を対象とした情報セキュリティ教育の研修を実施した。(全教職員実施済)          ・10月30日に開催された第1回情報セキュリティトップセミナーに校長他15名が参加した。なお、全教職員を対象に録画の視聴を実施した。          ・情報戦略推進本部情報共有講演会に参加した。(第1回 5/29:7名、第2回 6/29:5名、第3回 7/30:6名、第4回 9/27:6名、第5回 11/27:12名、第6回 12/20:10名、第7回 1/21:7名、第8回 2/25:8名、第11回 3/26:12名)</p>

第3期中期計画 平成30年度年度計画・実績報告

		福井高専 平成30年度 年度計画	福井高専 平成30年度 年度計画実績報告
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内外のセキュリティ問題を監視・対応する体制を強化する。</li> <li>・校内ネットワークシステムシステムや高専統一の各種システムなどの情報基盤について、時宜を踏まえた情報セキュリティ対策の見直しを進める。</li> <li>・平成29年度に移行した基幹システムについて、認証系の問題点を解決し、安定した運用を目指す。</li> <li>・Office365などの活用を目指し、それに沿った情報セキュリティ規定の見直しなどを検討する。</li> <li>・教職員の情報セキュリティ意識向上のため、必要な研修の受講を推進する。</li> <li>・実務担当者(情報システム管理者等)を対象とした人材育成研修の受講を計画的に推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高専機構CSIRTからの情報を担当者間で共有し、必要に応じて全教職員に周知した。</li> <li>・情報セキュリティ関連の規程について、現状を踏まえた規程改正を行った。</li> <li>・基幹システムについては、ネットワーク認証機能を電子情報工学科、電気電子工学科、環境都市工学科にて適用した。</li> <li>・H29よりOffice365では学生の利用制限が設けられていたが、全学生の誓約書を提出し、利用制限が解除された。</li> <li>・8/22情報戦略責任者会議(名古屋大学)に参加した。(2名)</li> <li>・9/5-9/7高専機構主催IT人材育成研修会(Ciscoネットワーク運用管理)に参加した。(1名)</li> <li>・11/14高専機構主催情報担当者研修会に参加した。(1名)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高専機構の第3期中期目標と中期計画に基づき策定された本校の第3期中期計画の下、各年度の計画を策定し、施策を適切に実行する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の第3期中期計画の下、最終年度のまとめとして策定した計画を適切に実行した。</li> </ul>
II	5 業務運営の効率化に関する事項	<p>5. 業務運営の効率化に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争性、透明性の確保を図る。</li> <li>・業務運営において、一層のコスト削減、効率化を図る。</li> <li>・契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、企画競争や公募を行う場合においても競争性、透明性の確保を図る。</li> <li>・業務運営において、一層のコスト削減、効率化を図る。</li> <li>・複数年契約が可能なものから実施し、コストの削減、業務の効率化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般競争契約5件及び企画競争契約1件について実施し、仕様策定により透明性や競争性の向上を図った。</li> <li>・北陸3高専の共同調達1件により、一層のコスト削減、効率化を図った。</li> <li>・契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとする。平成30年度施設整備事業の「福井工業高専ライフライン再生(給水設備等)設計業務」を簡易公募型プロポーザル方式(拡大)で公募し、「福井工業高専ライフライン再生(給水設備等)工事」を総合評価落札方式【簡易型】で公募し競争性、透明性の確保をした。</li> <li>・業務運営において、一層のコスト削減、効率化を図っている。平成30年においては、昨年度末に学寮ボイラーが故障し更新したことから平成30年度の学寮ボイラー設備点検業務を省略した。</li> <li>・複数年契約が可能なものから実施している。エレベーター保守点検業務を平成29年度に3年の複数年契約を締結し、コストの削減、業務の効率化を図っている。</li> </ul>
III	6 予算その他	<p>6. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員対象の研究活動評価調査を継続実施する(4月)。</li> <li>・平成31年度科学研究費助成事業(科研費)公募要領等説明会へ研究推進委員会委員を派遣する(9月)。</li> <li>・教員の科研費申請率・採択率向上のために、平成31年度科研費申請予定者事前調査を実施すると共に(7月)、科研費獲得のための講習会を開催する(9月)。</li> <li>・全教職員に科研費等外部資金公募に関する情報提供(メール配信・学内Webサイト公開・説明会開催)を継続実施する(随時)。</li> <li>・教員の研究内容・研究水準の質的向上と科研費申請・外部資金獲得への意識向上・意識改革のために、より具体的かつ効果的な研究支援・インセンティブ及び共同研究プロジェクト推進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に全教員対象の研究活動評価調査を実施した結果、昨年度までと比較して本年度は、特に、十分な研究活動と判断されるランクの教員が64名(85.3%)に大幅に増加した。</li> <li>・平成30年度科学研究費助成事業(科研費)の申請・採択状況については、教員の申請件数は52件であり、平成28年度・29年度実績(47・53件)に比較して増加・回復傾向にあるものの、採択件数は12件(新規5件・継続7件、総額17,420千円)、採択率は23.1%であり、本年度の実質的な達成度は昨年度とほぼ同レベルにとどまっている。</li> <li>・教員の科研費申請率・採択率向上のための平成31年度科研費申請予定者事前調査を7月に実施すると共に(申請予定教員54名(78.3%))、平成31年度科研費公募要領等説明会(9月)に教職員3名が参加、科研費講習会(10月)には教職員21名が受講し、全教職員に科研費等外部資金公募に関する情報提供とその内容の周知徹底を図った。</li> <li>・平成31年度科研費の申請状況は、教員の申請件数38件(申請率55.1%)であり、平成30年度実績と同レベルにとどまっているが、採択件数の増加と採択率の向上に期待したい。</li> <li>・教員の研究内容・研究水準の質的向上と科研費申請・外部資金獲得への意識向上・意識改革のために、より具体的かつ効果的な研究支援・インセンティブ及び学内外共同研究プロジェクト推進を図り、研究活動の更なる活性化と外部資金獲得に繋げたい。</li> </ul>

第3期中期計画 平成30年度年度計画・実績報告

		福井高専 平成30年度 年度計画	福井高専 平成30年度 年度計画実績報告
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員対象の研究活動評価調査を継続実施し、教員の研究ポテンシャルの把握と向上に努める。</li> <li>・科学研究費補助金説明会へ研究推進委員会委員を派遣し、申請のテクニックを研修させるとともに、採択率向上のための申請予定者事前調査を実施する。</li> <li>・外部資金公募情報の学内Webサイトで公開するとともに全教職員宛にメール配信し、応募の機会を逃さないような情報伝達を行う。</li> <li>・科学研究費補助金申請者・外部資金獲得者に対するより具体的かつ効果的な研究支援・インセンティブ付与制度、及び学内・学外共同研究プロジェクトの推進体制について検討し、研究の活性化と外部資金獲得に繋げる。</li> <li>・産学連携コーディネーターを活用して地元企業との共同研究プロジェクトを推進する体制を整える。必要に応じて機構本部のKRAとも連携する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機構本部等からもたらされる外部資金の情報等について学内で速やかに共有し、資金獲得に向けての努力を継続的に行ってきた。来期(第4期中期計画期間)においてもこの点について積極的な取り組みを進める予定である。</li> <li>・本校が任用している産学連携コーディネーターの橋渡しにより、地元企業や公設試験場などとの間で農工連携プロジェクトを実施中である。6月と9月、そして翌年2月には、グループのミーティングを行い、学外からの出席者(3名)も含めて3回のミーティングで計30名を超える参加者があった。研究も徐々に進捗が見られ、参加者間での有機的情報共有が促進されている。KOSEN4.0イニチアチブでも提案した通り、この農工連携分野での活動は本校における研究活動の柱の一つとして重要視しているところであり、今後も継続した努力を行っていく。</li> <li>・教員へのインセンティブとして、校長裁量経費の中から若手研究者への支援に60千円、外部資金獲得者への研究環境整備に対する支援に1,811千円を配分している。</li> <li>・今年度は共同研究16件(5,164千円)、受託研究1件(965千円)の研究費を獲得した。(平成29年度実績:共同研究11件、2,263千円、受託研究1件 計440千円)</li> </ul>
使途	剰余金の	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決算において剰余金が発生した場合には、教育研究活動や学生の福利厚生充実、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度決算においては収支が▲927,635円であり、剰余金は発生しなかった。</li> </ul>
VII	に1 関 す 施 る 設 計 及 画 び 設 備	<p>1 施設及び設備に関する計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井高専キャンパスマスタープランに基づき、教育研究活動及び施設・設備の老朽化状況等に対応した改修や環境整備を積極的に推進する。平成30年度は、ライフライン設備で経年劣化が著しい給水設備の改修工事を実施する予定である。</li> <li>・省エネ化対策方針に基づいて、夏季及び冬季時の空調機器の管理を徹底し省エネ化を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井高専キャンパスマスタープランに基づき、教育研究活動及び施設・設備の老朽化状況等に対応した改修や環境整備を積極的に推進している。平成30年度は、「福井工業高専ライフライン再生(給水設備等)工事」を発注し平成30年9月10日に着工し、設計変更があり平成31年3月15日に完成した。</li> <li>・省エネ化対策方針に基づいて、夏季及び冬季時の空調機器の管理を徹底している。平成30年度の「福井工業高専専攻科等空調設備改修工事」及び福井工業高専一般教育棟(教室)3階Aラボ空調機取替その他工事」において、高効率空調機に更新し省エネ化を推進した。</li> </ul>
	2 人 事 に 関 す る 計 画	<p>2 人事に関する計画</p> <p>(1)方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高専・両技科大間の教員交流制度を活用し、教育研究活動の活性化と連携を深めると共に、教育の改善と質の向上に努める。また、教員及び事務・技術職員を対象とした各研修会等に参加させ、一層の資質向上を図る。</li> </ul> <p>(2)人員に関する計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤教職員について、その職務能力を向上させると共に、全体として効率化を図り、学科構成並びに専攻科の在り方の見直しなどの高度化・再編・整備の検討を行う。</li> </ul>	<p>(研修会参加)</p> <p>&lt;教育職員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月6日～7日に開催された機構主催「新任教員研修会」に3名が参加した。</li> <li>・8月3日に開催された福井地方検察庁主催「法教育に関する教員研修」に1名が参加した。</li> <li>・8月6日～8日に開催された機構主催「中堅教員研修」に2名が参加した。</li> <li>・9月5日～6日に開催された機構主催「教員管理職研修」に校長補佐1名が参加した。</li> <li>・3月25日までに第3ブロックグローバル高専事業教職員向け英語研修に1名が参加した。</li> </ul> <p>&lt;事務職員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月、8月及び9月に開催された、豊橋技大、長岡岐大、高専機構が連携して行う「グローバルSD(マレーシア・ペナン研修)」に事務職員1名が参加した。</li> <li>・9月12日～13日に開催された東海・北陸地区高専係長級事務研修会に係長2名が参加した。</li> <li>・11月5日～6日に開催された北陸地区国立大学法人等中堅職員研修会に主任及び事務職員計2名が参加した。</li> <li>・12月に開催される北陸地区国立大学法人等人事労務研修に人事労務係主任が参加した。</li> </ul> <p>&lt;技術職員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7月24日に開催された局所排気装置等定期自主検査者講習会に技術長及び技術職員計2名が参加した。</li> <li>・8月1日～3日に開催された東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修会(生物・生命)に技術職員1名が参加した。</li> <li>・8月20日～22日に開催された東海・北陸地区技術職員研修会に技術職員2名が参加した。</li> <li>・8月24日に開催された東海北陸地区国立大学等安全衛生アライアンスキックオフ会議に技術長1名が参加した。</li> <li>・8月29日～31日に開催された東日本地域高専技術職員特別研修会に技術職員1名が参加した。</li> <li>・8月29日～31日に開催された東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修会(電気・電子)に技術職員1名が参加した。</li> <li>・9月7日に開催された舞鶴工業高等専門学校技術職員研修に技術職員1名が参加した。</li> <li>・2月22日に開催された作業環境測定士等対象研修会に技術長及び技術職員計2名が参加した。</li> <li>・3月25日までに第3ブロックグローバル高専事業教職員向け英語研修に技術専門職員1名が参加した。</li> </ul>